

## 2025 年度教職研究科 FD 活動「年間まとめ」

### (1) 2025 年度の取り組み概要

2025 年度の主な FD 活動は、以下の通りである。

#### 1) 授業評価アンケート

2025 年度も、春・秋 Semester ごとに、各授業に関して、「授業評価アンケート」を実施した。アンケートは、「授業内容について」「授業の進め方について」「受講生の取組について」の 3 観点にかかわる 14 の質問項目部分（選択肢方式）と、全般的な授業評価（授業の良いところや改善してほしいところなど）及び自己評価（身に付けることができたことや自身の授業への参加姿勢、今後の課題など）に関する自由記述部分から成る。各学期末に実施した FD 懇談会では、各授業のアンケート結果の分析を踏まえ、担当教員からの総括と次年度の改善点等を話し合った。

#### 2) 研究科アンケート

2025 年度も、学年末に「研究科アンケート」を実施した。2024 年度調査に引き続き、修了生対象の項目として、院生講師・非常勤講師制度の成果と課題に関する記述欄を設定した。また、オンライン受講制度が 3 年目を迎え、その課題等についても分析できるようにするため、現職院生の属性区分に関する選択肢を対面とオンラインに分けて尋ねている。

設問は、在学生全員を対象とした「教育課程について」「授業について」「学生支援について」「全体を通して」の 4 観点 20 項目と、加えて今年度修了生には「教育実践探究論文」の観点 5 項目と入学動機の振り返り及び上述の院生講師・非常勤講師制度に関する記述欄から構成される形とした。

#### 3) FD 調査（他大学調査を含む）

組織的な調査研究（FD 調査）として、2025 年度は「双方向遠隔地授業の方法及びシステム開発」「学部学生の早期履修に関する指導・支援方法の開発」「単位互換制度等の充実に向けた調査」に関する 3 つのテーマについて取り組んだ。1 つには「双方向遠隔地授業の今後の展開」として、特に実習における研究授業及び研究会のオンライン開催及び現職教員の研修への応用の方途を継続して探った。「学部学生の早期履修に関する指導・支援方法の開発」については、2024 年度から開始された早期履修制度利用学生への授業内外でのアプローチの在り方を探るため、利用者への聞き取り調査等により、ニーズの把握と実際の支援を行った。「単位互換制度等の充実に向けた調査」については、現在連携している京都教育大学連合教職大学院に加えて、北海道教育大学との単位互換にかかわる具体的検討を行った。

#### 4) 授業参観

外部への授業公開期間に合わせて、学期ごとに授業参観推奨週間（春学期：6/23～7/4、秋学期：11/3～14）を設け、年間 1 回以上の教員相互の授業参観を実施した（参観は推奨期間以外も随時可能）。参観した教員は「授業参観報告書【様式 B】」を授業担当者に提出し、それを受けて授業担

当の教員が「授業参観受入実施報告書【様式 A】」をまとめ FD 委員会に提出することにより、それぞれが担当授業のあり方について振り返る機会とした。オンライン受講制度の利用者が増加したことを踏まえ、引き続き双方向遠隔授業（6 限開講科目）の参観（特に遠隔受講生視点からのオンライン参観）を推奨した。

#### 5) 学びのポートフォリオ

2025 年度もカリキュラムの在り方を継続的に検討する材料とするために、院生に「学びのポートフォリオ」の提出を学期ごとに求めた。新カリキュラムの実施を踏まえ、2023 年度から、学期間の連続性を重視する視点から、様式を大幅に改訂している。なお、学びのポートフォリオは、院生相互で参照できるようにしている。また、教員には、「学びのポートフォリオ」の活用状況について報告する「活用票」（オンライン上のフォーム入力）提出を求めている。

#### 6) 修了生フォローアップ調査

修了生の勤務状況から本学の教員養成の成果と課題を理解することと、修了生の直面している課題や悩みに関するサポートを行うことを目的として、修了生フォローアップ調査を実施している。2025 年度については、7 期生（2025 年 3 月修了生）を中心に、2025 年春に主に連携及び近隣の教育委員会に正採用された者を対象として修了生フォローアップ調査（訪問調査）を実施した。加えて、2020 年 3 月修了から 5 年が経過した 2 期生について、2 巡目の修了生フォローアップ調査の対象と方法を決定し、オンラインによる修了生本人のヒアリングを中心に実施した。

#### 7) FD カフェ

教職研究科の教職員が気軽に参加し、授業等で活用することのできる資質・能力を高める機会として、2023 年度から新たに「FD カフェ」を企画しており、2025 年度も継続的に実施した。昨年度に引き続き ICT 活用を中心にしたテーマを設定した。

## (2) 取り組みの成果と課題

### 1) 授業評価アンケート・研究科アンケート

- ・ 別紙ファイル参照

### 2) FD 調査（他大学調査を含む）

「双方向遠隔地授業の方法及びシステム開発」については、遠隔授業推進委員会での検討をベースとしつつ、FD 懇談会等において関連する課題について意見交換を行った。オンラインに加えてオンデマンドを組み合わせた授業のあり方が検討課題となっていたものの、本学がリアルタイムでのオンラインによるハイフレックスな双方向遠隔授業を実施していることに魅力を感じている在学院生の声が多くあることから、当面は現行のオンライン受講制度を前提に、教室内の機器更新や配置の工夫等により、受講人数が増加する中でさらなる改善・充実を図ることが課題であるという認識に至った。

「学部学生の早期履修に関する指導・支援方法の開発」については、2024 年度の 4 回生以上から早期履修制度の運用が開始されたことを受けて、早期履修生への聞き取り調査を行い、概ね順

調に履修がなされているが、学部の履修科目の時間割や教育実習期間との関係など、学期ごとの早期履修の課題等についてさらなる検討の必要性が見えてきた。また、早期履修した学部4回生のほとんどが教職研究科への進学を希望しており、実施初年度から学生募集へのつながりという点でも成果が認められる。

「単位互換制度等の充実に向けた調査」については、2023年度からの新カリキュラムにおいて、京都教育大学連合教職大学院との協定により開講されている秋学期のコース共通科目「学校マネジメントの理論と実際」をベースとしながら、その別クラス展開として他大学との単位互換制度を拡充する方向性について学内手続き等の観点から事務的な検討を進めてきた。その上で、すでに教職大学院における遠隔授業を展開している北海道教育大学の教職大学院との情報交換を行い、2026年度より、単位互換制度を展開することとなった。

### 3) 授業参観

2023年度から開始されたオンライン受講制度の対象となる6限開講の授業を参観推奨として、今年度も教員間の授業参観が行われた。理論と実践のつながりに関わること、小学校教員希望者への教科教育の授業の在り方、チームでの学生発表の仕方など、実質的な授業改善につながる感想・意見等が参観した教員から寄せられた

### 4) 学びのポートフォリオ

2024年度から「学びのポートフォリオ」の様式を大幅に改訂し、これまで学期ごとに分かれていたファイルを入学から修了まで継続して使用することとしている。1年次の5月に目標の具体化を図った上で、春学期末にそのふり返りと秋学期の目標設定を行う形で、時系列的に自己の成長についてメタ認知的に省察できるよう工夫した。また、提出時期についても、他の院生等との交流を踏まえた上で精察を深めるタイミングとする観点から、各学年の発表会や報告会等の節目から1週間以内を目安とする形で運用することとなった。

課題としては、ポートフォリオ活用の主な場のひとつである研究者ゼミにおいて、受講生の増加、2週間に1回という開催回数の少なさ、合同授業や発表会・論文等の準備に時間がかかることなどがあり、じっくり指導する時間の確保が必要である点があげられる。2026年度からのmoodle+Rへの全面移行により、提出方法の周知、manaba+Rと比べて複雑なシステムへの慣れが必要となる。引き続き、日常的に学びや気づきをエピソードとしてストックしておくこと、また、発表会等の行事におけるプレゼン資料の一部に組み込むことなど、院生にとっての省察ツールであると同時に、指導教員にとっては院生理解のツールかつ院生とのコミュニケーション・ツールとしても機能しやすい工夫のあり方を引き続き検討する。

### 5) 修了生フォローアップ調査

直近の修了生を対象とする調査においては、本人及び管理職からのヒアリングを行うため、訪問調査を中心に実施した。管理職へのヒアリング調査では、何事にも一生けん命である、授業改善に意欲的である、学級経営が安定している、協調性があるなど、それぞれに日々の実践において大学院時代の学びが活用されている様子が窺われた。他方で、いろいろと教えたいという気持ちが前面に出てしまっている、まだまだ遠慮がちである、まわりに相談しない傾向にある、など

の指摘もあった。

本人調査においては、大学院で、現象の背後・背景を考えることの重要性を学んだことが、役に立っているという意見が、複数みられた。また、所属コースにおける学びを深めたことが、様々なことを考えるヒントになっていることも推察された。一方で、大学院時代にもっと学んでおきたかった内容としては、所属コース以外の専門的な内容や、小学校における様々な教科（音楽や図工）、教科の力などがあげられており、これらのニーズへの対応に関して、さらなる検討と充実が望まれる。

2020年3月に修了して5年が経過した2期生を対象に、2巡目の調査も進めた。役職・校務分掌等の履歴、教職大学院での学びが現場でどのように役立っているか、修了後も学び続けているかどうか、学会や研究会で発表希望があるか等について、修了後のネットワークづくりの視点を重視して設問を構成した5年経過修了生用の「修了院生ヒアリングシートⅢ」の様式をもとに、原則として教職に就いている修了生を調査対象とし、オンライン等によるヒアリングを中心に実施した。

修了から5年が経過する中で、1校目の勤務が続いているケースから他県に異動したケースまでキャリアパスは様々であるが、それぞれに学会等での研究発表や各種研修講師、論文執筆、校内でのプロジェクトのリーダーなど、若手・新人としては顕著な業績が認められている。教職大学院でもっと学んでおきたかった内容については、学校マネジメント、ICT・学校DXにかかわること、教科指導等が挙げられている。

## 6)FD カフェ

昨年度の3回の企画に続き、今年度は計2回のFDカフェを企画・開催した。第1回(12/5)は「デジタル教科書」、第2回(2/12)は「moodle+R」を取り上げた。前者については、最新のあるいは未来の教育現場に向けて、専門的な立場からの解説があり、実際にその使用感を体験できて好評であった。また、後者については、教職大学院としては、オンライン受講生が存在する関係上、コンテンツ配布やレポートの授受等で、その使用が避けられない。そこで、各教員が一定以上の使用ができることをめざし実施した。

また、「FDカフェ」の枠組みではないが、キャンパスハラスメント防止研修を、法務研究科との合同で実施した(2026年1月13日)。キャンパスハラスメントとは何か、その要因(とくにアンコンシャスハラスメント)、キャンパスハラスメントへの対応、という内容であり、大学教員として必要な知識を得ることができた。

### (3) 次年度に向けて

組織的な調査研究(FD調査)として、2026年度は「双方向遠隔地授業の方法及びシステム開発」「学部学生の早期履修に関する指導・支援方法の開発」「単位互換制度等の充実に向けた調査」に関する3つのテーマについて引き続き取り組む。1つには「双方向遠隔地授業の今後の展開」として、オンライン受講制度のさらなる充実にかかわって、実習(教職専門研修)における研究授業及び研究会のオンライン開催及び現職教員の研修への応用の方途を継続して探る。「学部学生の早期履修に関する指導・支援方法の開発」については、2024年度に開始された早期履修制度利用学生への授業内外でのアプローチのあり方を引き続き探る。2025年度に引き続き、聞き取り調査等

により、入学後のメリットを含めた効果の把握と課題点の洗い出しをさらに進め、早期履修中の学部学生への支援のあり方等についても引き続き検討する。「単位互換制度等の充実に向けた調査」については、京都教育大学連合教職大学院に加えて、2026年度より単位互換を開始する、北海道教育大学教職大学院との連携授業に関して、メリットを含めた効果の把握と課題点の洗い出しを行い、改善の方策を検討する。

授業アンケートとFD懇談会、研究科アンケート、「学びのポートフォリオ」とその活用、授業参観、FDカフェについては、今年度までの取組で明らかになった成果と課題を踏まえた上で、それぞれの様式及び観点等の継続的な見直しを進めながら実施する。また、FDカフェでは、moodle+Rへの全面移行にあたってさらなる情報交換等の機会を設けるとともに、現在実施している修了生研究に関する事など、多様なテーマの発掘と教職員間の交流の促進に努める。

修了生フォローアップ調査については、直近に修了し連携教育委員会の学校に採用された者については原則学校訪問と管理職・本人への聞き取りを行う。また、修了後5年経過した修了生（3期生）については本人への聞き取りを行うこととしたい。